

YAMAHA

DIGITAL PIANO

YDP-88

取扱説明書

このたびは、
ヤマハ・デジタルピアノ YDP-88を
お買い求めいただきまして、
まことにありがとうございました。

YDP-88の機能を十分に生かして
演奏をお楽しみいただくために、
この「取扱説明書」をご活用ください。
お読みになったあとは、いつでも
ご覧になれるところに大切に保管して
くださいますよう、お願い申し上げます。

目次

「はじめに」では、YDP-88の特長や、お使いになる上でのご注意、各部の名称とはたらきなどについて説明します。YDP-88を最初にお使いになる前に、必ずお読みください。

正しくお使いいただくために	2
付属品	2
特長	3
表記上のきまり	3
ご使用前の準備	3
各部の名称とはたらき	4
音を出す準備	6

「基本編」では、基本的な音色選択をはじめ、ペダル効果や、演奏を盛り上げるさまざまな効果について説明します。

さあ！弾いてみましょう	7
デモ演奏を聴いてみましょう	8
ペダル効果	9
デュアル機能	9
メトロノーム機能	11

「応用編」では、自分の演奏を録音できるレコーダーなどの発展的な機能について説明します。

録音	13
再生	15
トランスポーズ（移調）機能	16
ピッチコントロール機能	17

「資料」では、YDP-88の組み立てかたなど、お使いになる上で役に立つ資料をまとめてあります。

YDP-88の組み立てかた	18
仕様	19
サービスと保証	裏表紙

はじめに

基本編

応用編

資料編

正しくお使いいただくために



設置場所

次のような場所でご使用になりますと、故障などの原因となりますのでご注意ください。

- ・窓際などの直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど極端に熱い場所
- ・温度の特に低い場所
- ・湿気やホコリの多い場所
- ・振動の多い場所



お取り扱い

次のようなご使用は、故障や外装を傷める原因となりますので、ご注意ください。

- ・物をぶつかけたり上に乗るなど、乱暴に扱う。
- ・汚れた手や濡れた手で触る。
- ・ボタンやスイッチ類に無理な力を加える。



YDP-88の上に物を置く場合のご注意

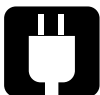
次のような物をYDP-88の上に置きますと、水がこぼれて故障の原因になったり、外装を傷める原因となりますので、ご注意ください。

- ・水の入った花瓶や鉢
- ・塩化ビニール加工された表紙の本、ビニール製品、プラスチック製品



外装と鍵盤のお手入れ

- ・お手入れは、フェルト布などの柔らかい乾いた布で乾拭きするか、汚れのひどいときは少し水で湿らせた布で拭いてください。アルコールやシンナーなどの溶剤は、絶対に使用しないでください。
- ・市販の化学雑巾や外装手入れ剤のご使用は避けてください。



電源

- ・YDP-88は日本国内仕様です。電源は必ずAC100Vでご使用ください。
- ・ご使用にならないときは、電源スイッチを切ってください。
- ・落雷の危険があるときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ・消費電力の大きな機器と同じコンセントを使用したり、タコ足配線をするとう質が劣化したり、故障の原因となりますので、ご注意ください。
- ・濡れた手で電源プラグに触れると、感電するおそれがありますので、ご注意ください。
- ・電源コードをコンセントから抜くときは、プラグを持って抜いてください。コードを引っ張ると、断線やショートの原因となります。



他の電気機器への影響

ラジオやテレビの近くで使用しますと、ラジオやテレビに雑音が発生することがあります。十分に離れてご使用ください。



保証書

お買い求めいただきました際に、お買い上げ店で必ず保証書の手続きをお取りください。保証書にご購入日や販売店印がない場合、保証期間中でも修理の費用をいただくこととなりますので、ご注意ください。

その他

- ・YDP-88の内部を開けたり改造することは、事故や故障の原因となりますので、絶対にしないでください。改造後の保証はいたしかねます。
- ・誤って水やその他の液体をYDP-88にこぼしたり、YDP-88から異臭や煙が出たときは、すぐに電源プラグを抜き、お買い上げ店または巻末のサービス拠点にお問い合わせください。

YDP-88は調律の必要がありません。



音楽を楽しむエチケット

これは電子機械工業会 管のエチケット・キャンペーンのマークです。

楽しい音楽も時間や場所によっては気になるものです。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところで迷惑をかけてしまうことがあります。隣近所への配慮を十分に、快い生活環境を守りましょう。

付属品 お確かめください

ヘッドフォン
椅子
譜面立て
トップカバー

取扱説明書(本書)
保証書
ご愛用者カード

特長

AWM音源により、リアルで高品位な表現が可能です。

最大28音の同時発音により幅広い演奏表現が可能です。

鍵盤を弾くタッチの強弱により、演奏に表情をつけることができます。

デュアル機能により、2つの音色を重ねて演奏することができます。




メトロノームを装備しており、レッスンなどで有効にお使いいただけます。

自分の演奏を録音したり、再生させることができます。

表記上のきまり

この取扱説明書では、表記に次のような記号を使います。

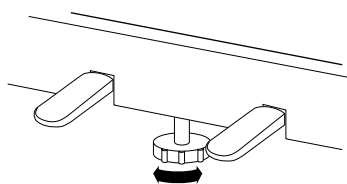
 補足 : 補足説明です。

   : 本書の手順の説明のイラストで、ランプの点灯、点滅、消灯は、それぞれこのように表します。

ご使用前の準備

アジャスターの調節

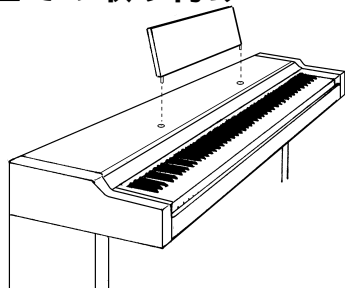
(必ず行ってください)



設置場所が決まりましたら、ペダルの下のアジャスターを回して、ペダル部を床面に固定させてください。

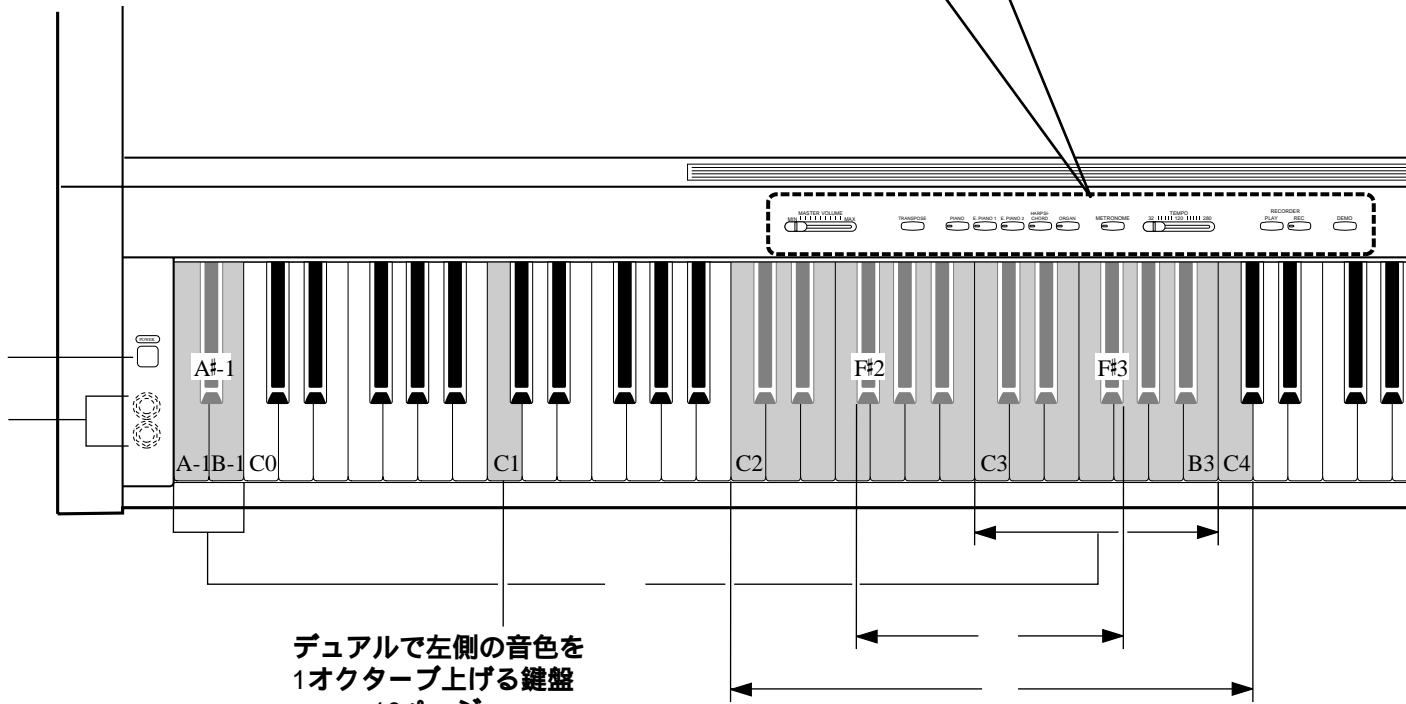
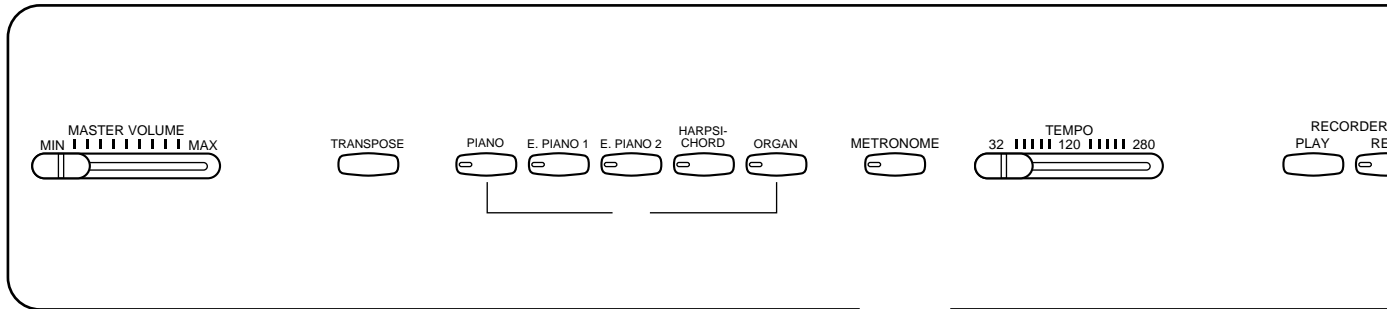
アジャスターが固定されていないと、ペダルを踏んだときにぐらつきが生じます。

譜面立ての取り付け



譜面立てのピンを、本体の譜面立て穴に差し込みます。

各部の名称とはたらき



矢印()のページに詳しく説明してあります。

電源スイッチ [POWER] 6ページ

電源をオン/オフするスイッチです。このスイッチを押すと電源が入り、もう一度押すと切れます。

ボリューム [MASTER VOLUME] 7ページ

音量を調節するためのスライダーです。

トランスポーズボタン [TRANPOSE] 10ページ

トランスポーズ(移調)の設定をするときに使用します。

音色ボタン 7ページ

演奏に使う音色を選ぶことができます。

同時に2つのボタンを押すことで、2つの音色を重ねて演奏することもできます。(デュアル機能 9ページ)

メトロノームボタン [METRONOME] 11ページ

このボタンを押してランプを点灯させると、メトロノーム音が加わります。

テンポスライダー [TEMPO] 12 15ページ

テンポを調節するためのスライダーです。

プレイボタン [PLAY] 15ページ

再生するときに押すボタンです。

レコードボタン [REC] 13ページ

録音するときに押すボタンです。

デモボタン [DEMO] 8ページ

デモ演奏を聴くときに押すボタンです。

ヘッドフォン端子 [PHONES] (裏面にあります)

ヘッドフォンを接続する端子です。ヘッドフォンを接続すると、YDP-88のスピーカーからは音がでなくなりますから、夜間でも周りに迷惑をかけることはありません。

2つのヘッドフォンを接続することができますので、お子様のレッスンをもう一人の方が確認したり、アンサンブルも可能です。耳をあまり刺激しないように、適度な音量でご使用ください。

ピッチコントロール用鍵盤 17ページ

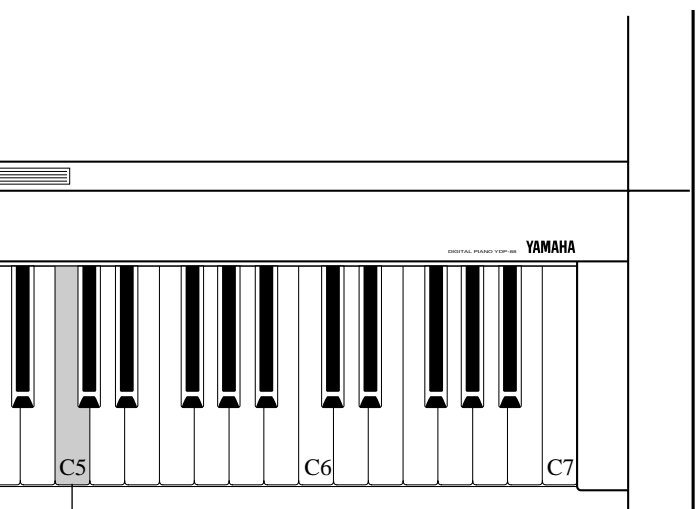
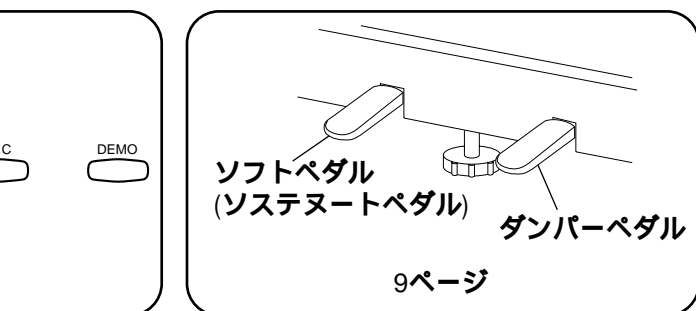
ピッチ(音程)の設定で使用する鍵盤です。

トランスポーズ用鍵盤 10ページ

トランスポーズ(移調)の設定で使用する鍵盤です。

バランス用鍵盤 10ページ

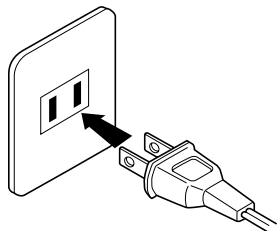
デュアル機能での音量バランスを設定するときに使用する鍵盤です。



デュアルで右側の音色を
1オクターブ上げる鍵盤
10ページ

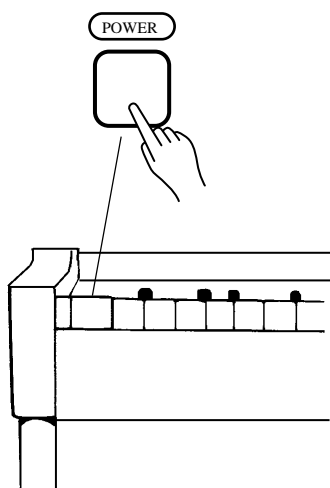
音を出す準備

1 電源コードを接続する



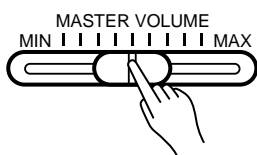
家庭用(AC100V)コンセントに、電源プラグを差し込みます。

2 電源を入れる



電源(POWER)スイッチを押して電源を入れます。

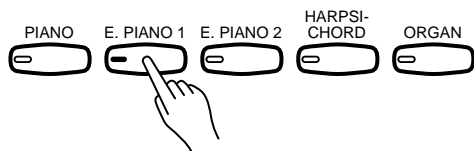
3 音量を調節する



ボリューム(MASTER VOLUME)を中程まで上げておきます。あとは、YDP-88を実際にお使いいただきながら、調節します。

さあ！弾いてみましょう

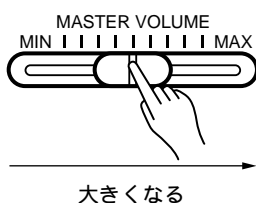
1 音色の指定



演奏したい音色のボタンを押します。
「ランプが点灯します。」

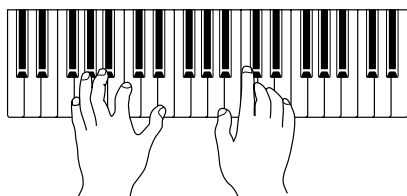
・下記の音色一覧表を参考にしてください。

2 音量調節



ボリューム(MASTER VOLUME)で音量を調節します。


3 演奏



いろいろな音色に切り換えて、弾いてみましょう。

音色一覧表

音色	音のイメージ
ピアノ (PIANO)	ダイナミックで豊かな響きのグランドピアノの音色です。
エレクトリックピアノ1 (E.PIANO 1)	ストリングス風の温かい音色とハーブ風の固めの音をミックスした音です。ドビュッシーなど、夢のある曲にお勧めです。
エレクトリックピアノ2 (E.PIANO 2)	固めのクリアなエレクトリックピアノの音色です。
ハーブシコード (HARPSICHORD)	バロック音楽などでよく使われる、ピアノの原形ともいわれる鍵盤楽器ハーブシコードの音色です。チェンバロともいいます。
オルガン (ORGAN)	パイプオルガンの音色です。

 **補足** ・ピアノの音色は、ピアノ本来の音をできる限り忠実に再現しようとしています。そのため、音域によっては倍音が強調されて聴こえるなど、音程や音質が異質に感じる場合があります。

・YDP-88にはさまざまな効果や機能がありますが、それらは後で順に紹介していきます。

デモ演奏を聴いてみましょう

YDP-88には、デモ演奏が各音色について1曲ずつ内蔵されており、いつでも自由に聴くことができます。

1 デモ演奏の選曲状態に入る



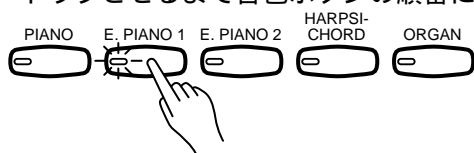
デモ(DEMO)ボタンを押します。

「音色ボタンのランプが順に点滅し、デモ演奏の選曲待ち状態になります。

2 曲をスタートさせる

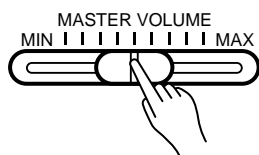
デモ演奏を聴きたい音色ボタンを押します。

「押したボタンのランプが点滅し、その音色に応じたデモ演奏がスタートします。その後、ストップさせるまで音色ボタンの順番に連続演奏されます。



- ・デモ演奏中、別の音色ボタンを押すと、そのデモ曲に切り換わります。
- ・デモ演奏中の音色ボタンをもう一度押すと、デモ演奏はストップして再び選曲待ちの状態に戻ります。

3 音量調節




ボリューム(MASTER VOLUME)で音量を調節します。

大きくなる

4 デモ演奏状態から抜ける


デモボタンを押します。

「デモ演奏状態から抜け、通常の状態に戻ります。

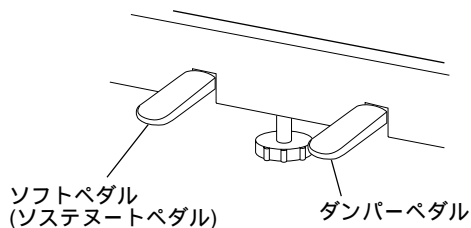
 **補足** ・デモ演奏のテンポは変更できません。

デモ曲一覧表

音色	曲名	作曲者
ピアノ (PIANO)	ピアノソナタK.V.331第3楽章「トルコ行進曲」	モーツァルト
エレクトリックピアノ1 (E.PIANO 1)	「なき王女のためのパヴァーヌ」	ラベル
エレクトリックピアノ2 (E.PIANO 2)	オリジナル	
ハープシコード (HARPSICHORD)	「調子のよい鍛冶屋」	ヘンデル
オルガン (ORGAN)	「結婚行進曲」	メンデルスゾーン

 **補足** ・デモ演奏は、1曲すべてでなく部分的に抜粋しているものもあります。

ペダル効果

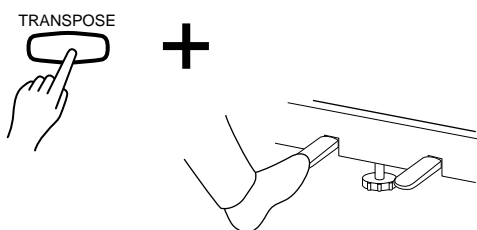


YDP-88のスタンド部分には2つのペダルがついています。左側のソフトペダルは切り換えて、ソステヌートペダルにすることもできます。各ペダルの効果をうまく使い分けましょう。

1 ダンパーペダル

アコースティックピアノを演奏する際に最もよく使うペダルです。ペダルを踏むと、すべての音に余韻がかかります。

2 ソフト/ソステヌートの選択



トランスポーズボタンを押しながら、ソフトペダルを踏むと、ソステヌートペダルになります。もう一度同じ操作をすると、ソフトペダルに戻ります。


3 ソフトペダル

音量がわずかに下がると同時に、音の響きが柔らかくなります。音の響きを柔らかくしたいところで使うと効果的です。

4 ソステヌートペダル

ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけに余韻が付きます(ソステヌート効果)。ペダルを踏んだ後に弾いた音には、余韻は付きません。

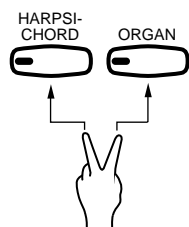
低音部の音だけを響かせながら、右手でメロディを弾くときなどに使用します。ソステヌート効果は、ドビュッシーの「月の光」などに使われています。

 **補足** ・ソフト/ソステヌートの選択は電源をオフにするまで記憶され、電源オン時にはソフトペダルに戻ります。

デュアル機能

2つの音色を選んで、重ねて演奏することができます。

1 デュアル状態に入る

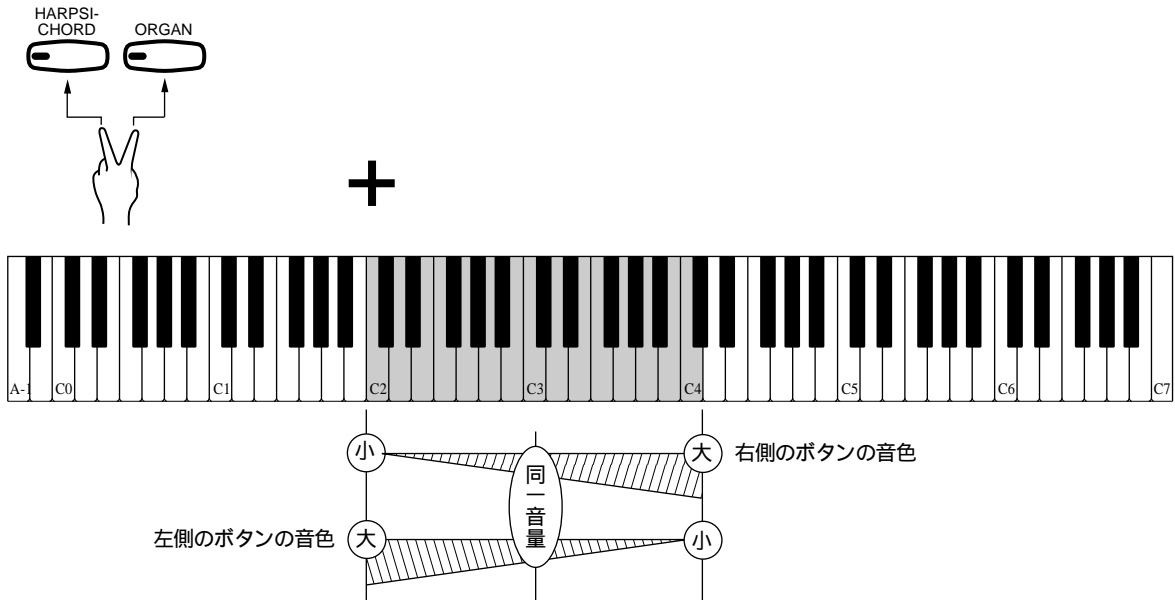


組み合わせたい2つの音色ボタンを同時に押します。「ランプが点灯します。」

2

音量バランスの設定

組み合わせた2つの音色ボタンを押しながら、C2～C4の鍵盤を押すことで、2つの音色の音量バランスを設定できます。



3

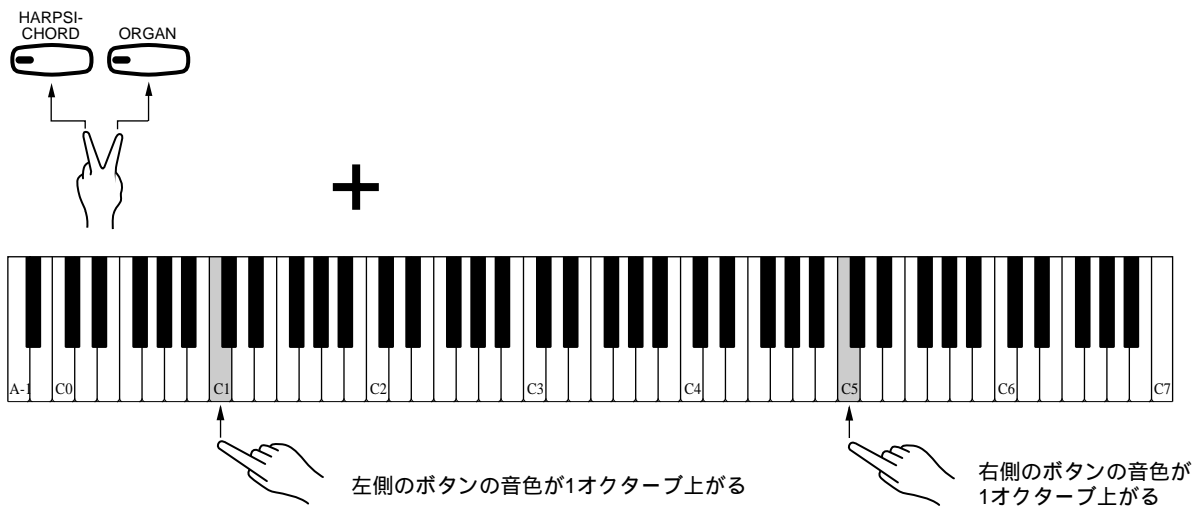
片方を1オクターブ上げる設定

組み合わせた2つの音色ボタンを押しながら、


Cの鍵盤を押すと 右側に配置されているボタンの音色が、1オクターブ上がります。

Cの鍵盤を押すと 左側に配置されているボタンの音色が、1オクターブ上がります。

- ・ いずれの場合も、もう一度同じ操作をすると、元の音程に戻ります。
- ・ 設定した音量バランスとオクターブの切り換えは、電源をオフにするまで記憶されます。



- 補足** ・ 設定は電源をオフにするまで記憶されます。
 ・ オクターブの切り換えは、音色の組み合わせごとに設定できます。電源オン時には、すべて同一オクターブになっています。

-  **補足** ・音量バランスの設定は、音色の組み合わせごとに設定できます。電源オン時には、下表の鍵盤を押して設定したバランスになっています。

	オルガン	ハーブシコード	エレクトリックピアノ2	エレクトリックピアノ1
ピアノ	E2	C3	C3	C3
エレクトリックピアノ1	F2	C3	C3	
エレクトリックピアノ2	E2	C3		
ハーブシコード	G2			

C2 : 左側音色最大音量 / 右側音色最小音量
 ……
 C3 : 同一音量
 ……
 C4 : 左側音色最小音量 / 右側音色最大音量

メトロノーム機能

正確なテンポで演奏したいときは、YDP-88のメトロノームをお使いください。

1 メトロノームをスタートさせる



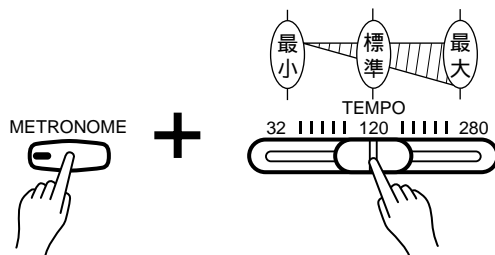
メトロノーム(METRONOME)ボタンを押します。

「メトロノームボタンのランプが点灯し、メトロノームがスタートします。

- ・録音した曲の再生中に押すと、再生のタイミングに合わせて、メトロノームが鳴ります。

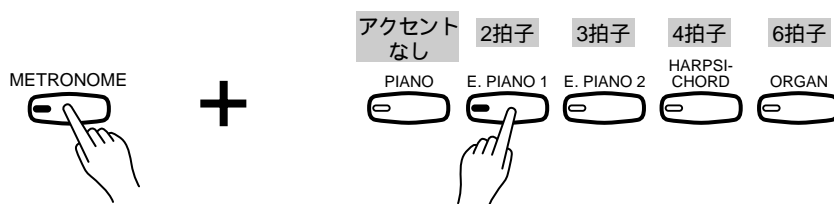
2 メトロノームの音量調節

メトロノームボタンを押しながら、テンポ(TEMPO)スライダーを動かすことで、メトロノームの音量を調節できます。



3 拍子の設定

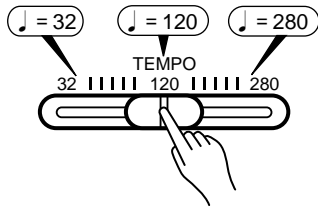
メトロノームボタンを押しながら、音色ボタンを押すことで、メトロノームの拍子を設定できます。音色ボタンには、次のように拍子が割り当てられています。



メトロノーム機能

4

テンポの調節



テンポスライダーを動かすことで、メトロノームの速さ(1分間の拍数)を♩ = 32 ~ 280の範囲で調節できます。

5

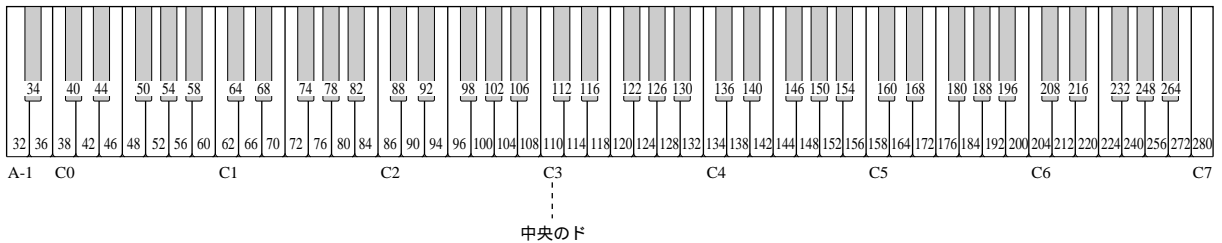
メトロノームを止める



メトロノームボタンを押します。

「メトロノームボタンのランプが消灯して、メトロノームが止まります。」

- 補足** ・ 録音した曲を再生させながらメトロノームを鳴らしているとき、レコーダーのプレイ (PLAY)ボタンを押して再生をストップさせると、メトロノームも止まります。
- ・ 電源オン時には、メトロノームの音量は標準、拍子は「アクセントなし」になっています。
 - ・ メトロノームボタンを押しながら鍵盤を押すことで、テンポ(♩ =)を下記のように正確に設定することができます。



鍵盤	速さ	鍵盤	速さ	鍵盤	速さ	鍵盤	速さ	鍵盤	速さ	鍵盤	速さ	鍵盤	速さ	鍵盤	速さ
A -1	32	A 0	36	A 1	40	A 2	44	A 3	48	A 4	52	A 5	56	A 6	60
A#-1	34	A#0	38	A#1	42	A#2	46	A#3	50	A#4	54	A#5	58	A#6	62
B -1	36	B 0	40	B 1	44	B 2	48	B 3	52	B 4	56	B 5	60	B 6	64
C 0	38	C 1	42	C 2	46	C 3	50	C 4	54	C 5	58	C 6	62	C 7	66
C#0	40	C#1	44	C#2	48	C#3	52	C#4	56	C#5	60	C#6	64		
D 0	42	D 1	46	D 2	50	D 3	54	D 4	58	D 5	62	D 6	66		
D#0	44	D#1	48	D#2	52	D#3	56	D#4	60	D#5	64	D#6	68		
E 0	46	E 1	50	E 2	54	E 3	58	E 4	62	E 5	66	E 6	70		
F 0	48	F 1	52	F 2	56	F 3	60	F 4	64	F 5	68	F 6	72		
F#0	50	F#1	54	F#2	58	F#3	62	F#4	66	F#5	70	F#6	74		
G 0	52	G 1	56	G 2	60	G 3	64	G 4	68	G 5	72	G 6	76		
G#0	54	G#1	58	G#2	62	G#3	66	G#4	70	G#5	74	G#6	78		

録音

YDP-88にはレコーダーがあり、自分の演奏を1曲録音することができます。

1

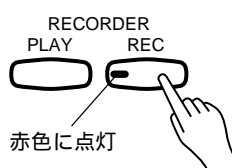
音色を選ぶ

録音したい音色のボタンを押します。

- ・録音中に音色を切り換えると、その操作も記録され、再生時に同じタイミングで音色が切り換わります。

2

録音待機状態にする



レコード(REC)ボタンを押します。

「レコードボタンのランプが赤色に点灯し、録音待機状態になります。

- ・録音を中止するときは、もう一度レコードボタンを押します。

3

メトロノームを鳴らす場合

メトロノームボタンを押します。

- ・メトロノームのテンポや音量を調節したり、拍子を設定することができます(11ページ参照)。
- ・メトロノームの音は録音されません。

4

録音を始める

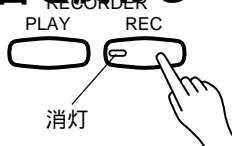
演奏を始めます。

「鍵盤を押した時点から録音が始まります。

- ・曲のはじめに何拍かの無演奏部分が必要なときは、プレイ(PLAY)ボタンを押します。録音が始まりますので、必要な拍数だけ待ってから演奏を始めます。


5

録音を終わる



レコードボタンまたはプレイボタンを押します。

「レコードボタンのランプは消灯し、再生待機状態になります。

-  **補足** ・録音は音符やペダル操作だけでなく、デュアル音色の組み合わせなど次ページの表の内容が記録されます。演奏を始めるまで(手順3以前)に操作した音色選択などの情報は、その曲の初期値として記録されます。初期値は、あとで変更できます(次ページ参照)。
- ・最大約1,300音符記録できますが、機能をたくさん使うと減ります。また、録音の途中でも記憶残容量がなくなると、レコードボタンのランプが点滅し、録音が終了します(終了した時点までの演奏は記録されます)。
 - ・録音した曲は、電源をオフにするまで記憶されます。電源をオフにすると消えてしまいます。

録音

記録内容について

データ	初期値	録音中	録音後の初期値変更	操作
押鍵情報	×		×	押鍵
音色				音色ボタン
デュアル音色				音色ボタン + 音色ボタン
デュアルバランス				音色ボタン + 音色ボタン + 鍵盤C2 ~ C4
ダンパーペダル				ダンパーペダル
ソフトペダル				ソフトペダル
ソステヌートペダル	×		×	ソステヌートペダル(ソフトペダルから切り換え時)
テンポ		×		テンポスライダー

初期値の変更

録音が終わったあとで、録音した曲の初期値を変更することができます。変更できる内容は、上表をご覧ください。

レコードボタンを押します。

「レコードボタンのランプが赤色に点灯して、録音待機状態になります。

パネルを操作して初期値を変更します。

レコードボタンを押します。

- ・ 誤ってプレイボタンや鍵盤を押さないでください。プレイボタンや鍵盤を押すと録音が始まってしまう、録音済みの曲が消えてしまいます。

「レコードボタンのランプが消灯します。

- ・ たとえば、録音したピアノの音色をエレクトリックピアノ1に変更したいときは、レコードボタンを押して録音待機状態にし、次にエレクトリックピアノ1の音色ボタンを押し、再びレコードボタンを押します。これで音色がエレクトリックピアノ1に変更されます。

録音した曲の削除

レコードボタンを押して録音待機状態にします。

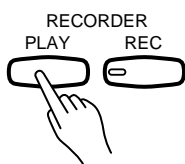
プレイボタンを2回押します(プレイボタンを押して録音を開始し、何もしないでもう一度プレイボタンを押して録音を終了させます)。

再生

録音した曲を再生させてみましょう。

1

再生を始める



プレイ(PLAY)ボタンを押します。

「再生が始まります。

- ・再生音に合わせて、演奏することができます。

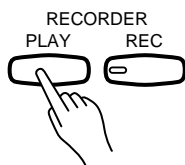
2

音量を調節する

ボリュームで音量を調節します。

3

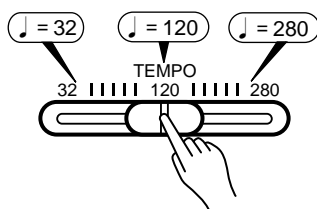
再生を終わる



もう一度プレイボタンを押します。

- ・曲の最後まで再生させたときは、プレイボタンを押さなくても再生が終わります。

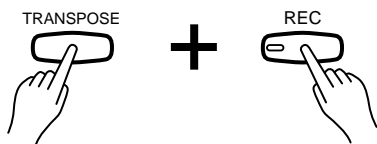
テンポを変える



再生中にテンポスライダーを動かすことで、テンポを変更することができます。

- ・メトロノームボタンを押しながら鍵盤を押すことで、テンポを正確に変更することもできます(12ページ参照)。

曲の早送り



再生中にトランスポーズボタンを押しながらレコードボタンを押すことで、早送りができます。

「早送り音が聴こえます。

- ・操作をやめたところから、通常の再生音に戻ります。

トランスポーズ (移調) 機能

押さえる鍵盤を変えずに、歌う人の声や他の楽器の高さに、キー(調)を合わせることができます。(つまり、弾く鍵盤の位置と発音される音の高さをずらすことができます。)

- ・ -6 ~ +6半音の範囲でずらすことができます。「ド」の音なら低い方に最大で「ファ#」(半オクターブ下)まで、高い方も最大で「ファ#」(半オクターブ上)までずらすことができます。たとえば、+5半音ずらす(完全4度上げる)と、下の楽譜Aを弾くと、楽譜Bのように鳴ります。



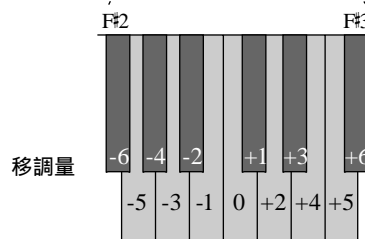
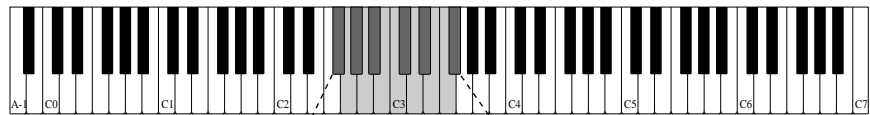
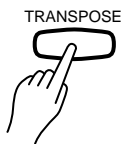
移調量の設定

トランスポーズボタンを押しながら、F#2 ~ F#3の鍵盤を押すことで、移調量を設定できます。

2の鍵盤 -6半音に設定されます。

C3の鍵盤 ... 標準状態(0)です。

3の鍵盤 +6半音に設定されます。



補足 ・ 設定は電源をオフにするまで記憶され、電源オン時には標準状態(0)に戻ります。

- ・ 移調によって、A-1より低くなった音は1オクターブ上の音で、C7より高くなった音は1オクターブ下の音で鳴ります。

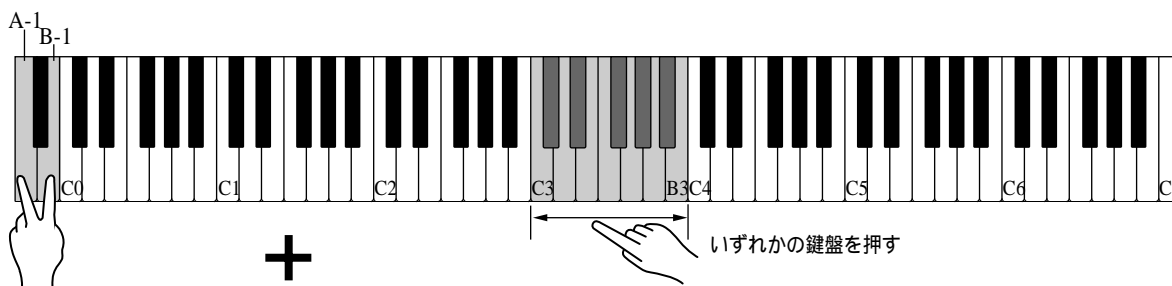
ピッチコントロール機能

合奏のときなどに、音程(ピッチ)を正確に合わせるための機能です。他の楽器と微妙に音程が異なる場合は、この機能を使って音の高さを合わせます。

- ・ 約-50セント～約+50セントの範囲で、約1.6セントきざみの設定ができます(100セント = 半音)。

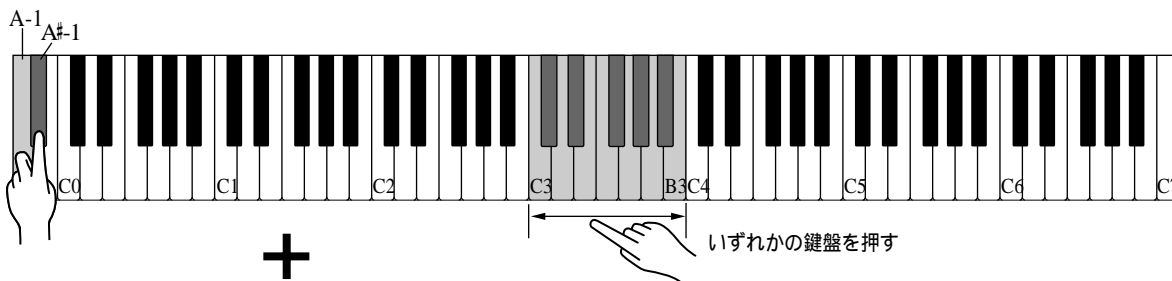
1 音程を上げる

A-1とB-1の鍵盤(左端の白鍵2つ)を同時に押しながら、C3～B3のいずれかの鍵盤を押します。1回押すごとに1きざみずつ音程が上がります。音を聴きながらきざみに音程を上げて、他の楽器と合わせてください。



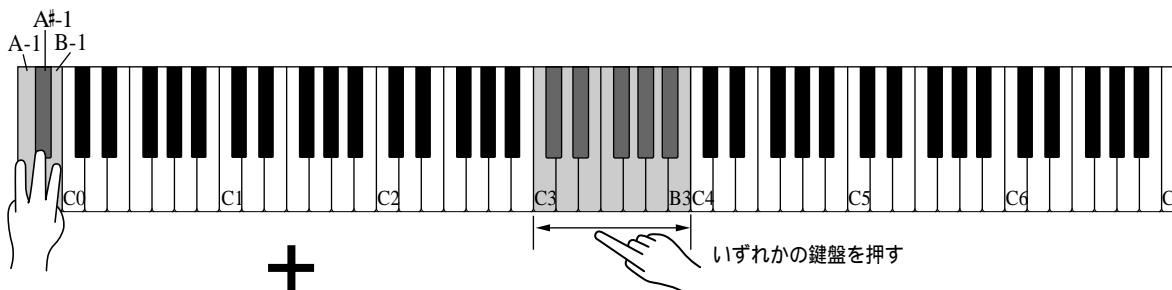
2 音程を下げる


A-1とA#-1の鍵盤(左端の白鍵と黒鍵)を同時に押しながら、C3～B3のいずれかの鍵盤を押します。1回押すごとに1きざみずつ音程が下がります。音を聴きながらきざみに音程を下げて、他の楽器と合わせてください。



3 標準状態に戻すとき

A-1とA#-1とB-1の鍵盤(左端の白鍵2つと黒鍵1つ)を同時に押しながら、C3～B3のいずれかの鍵盤を押します。

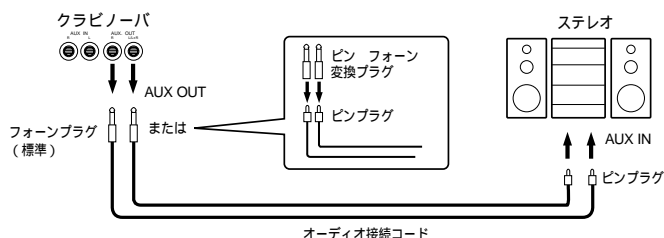


 **補足** ・ 設定は電源をオフにするまで記憶され、電源オン時には、標準状態(A3 = 440Hz)に戻ります。

他の機器と接続する

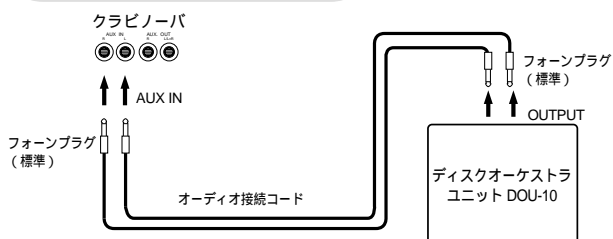
リアパネルの付属端子を使って、各機器と接続できます。なお、MIDI端子については次ページをご覧ください。

AUX出力端子を使う




オーディオ接続コードを使って図のように接続すると、ステレオなどからより大きな音を出したり、演奏を録音できます。ステレオに接続したときは、クラビノーバのボリューム(MASTER VOLUME)を半分くらいにして、ステレオのボリュームで音量調節してください。

AUX入力端子を使う



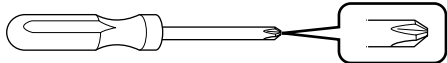
オーディオ接続コードを使って図のように接続すると、DOU-10など他の楽器や機器の音をクラビノーバのスピーカーから出すことができます。

-  **補足** ・ AUX入力端子から入力した外部機器の音も、クラビノーバの音といっしょに本体スピーカーとAUX出力端子から出力されますが、クラビノーバの音量調節やリバースなどは効きません。
- ・ AUX出力端子から出力した音を、AUX入力端子に戻さないでください。
 - ・ オーディオ接続コードおよび変換プラグは、抵抗のないものをお使いください。

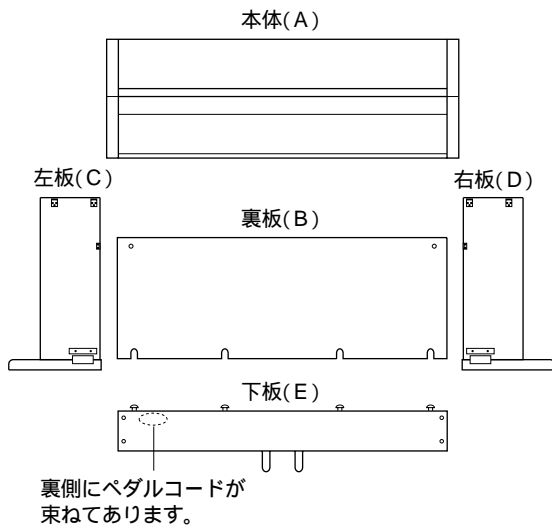
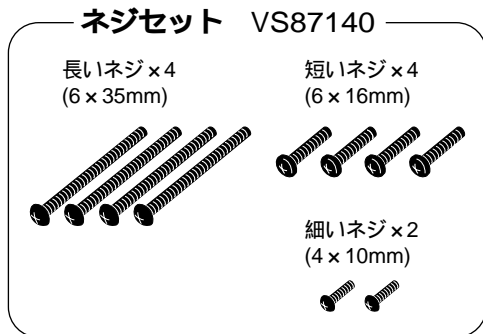
YDP-88の組み立てかた

- ・ 部品をまちがえたり、向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- ・ 組み立ては、2人で行うことをお勧めします。
- ・ ネジは指定のサイズ以外のもは使用しないでください。サイズの違うネジを使用すると、製品の破損や故障の原因となる場合があります。
- ・ ネジは各ユニット固定後、ゆるみがないよう増し締めを行って確実に固定してください。
- ・ 解体するときは、組み立てと逆の手順で行ってください。

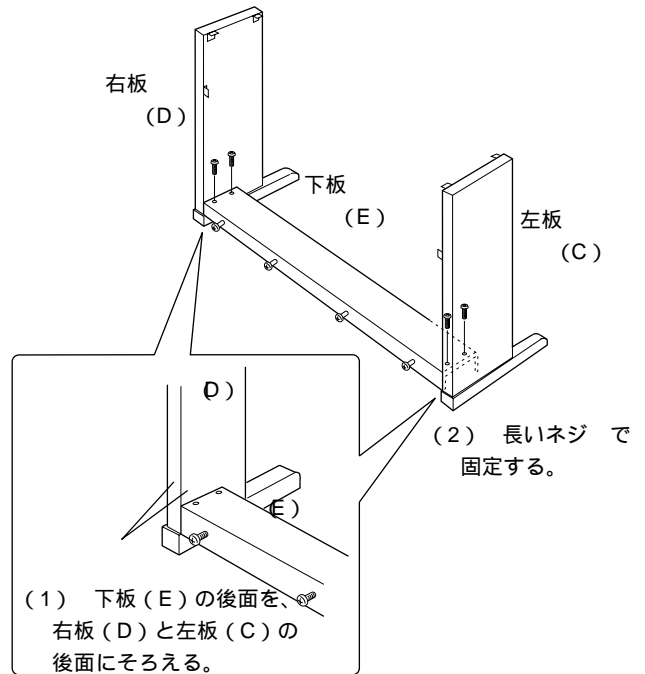
1 + プラス)のドライバーを用意します。



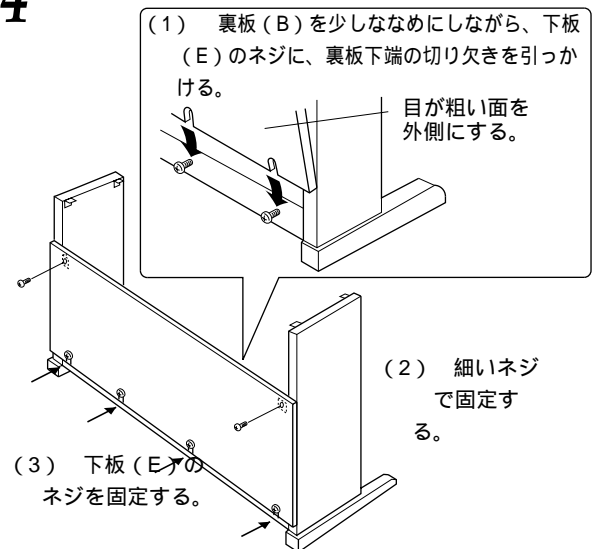
2 箱を開けて部品を取り出します。そして部品がすべてそろっているか確かめてください。



3 下板(E)を右板(D)と左板(C)に固定します。

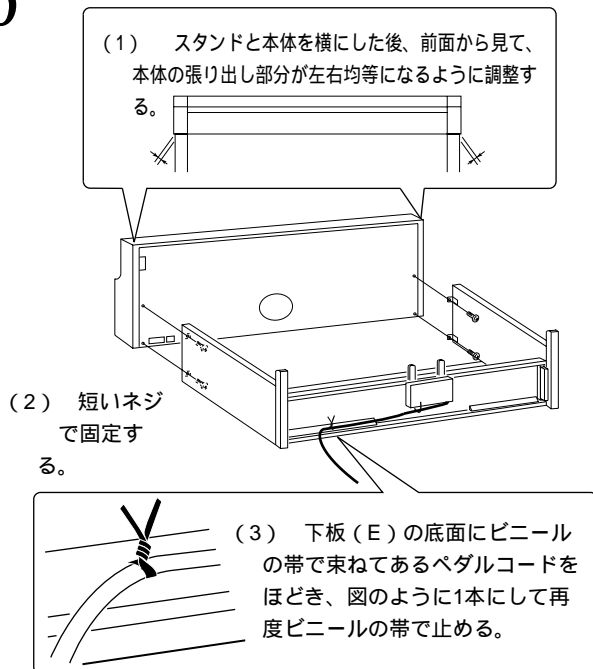


4 裏板(B)を固定します。

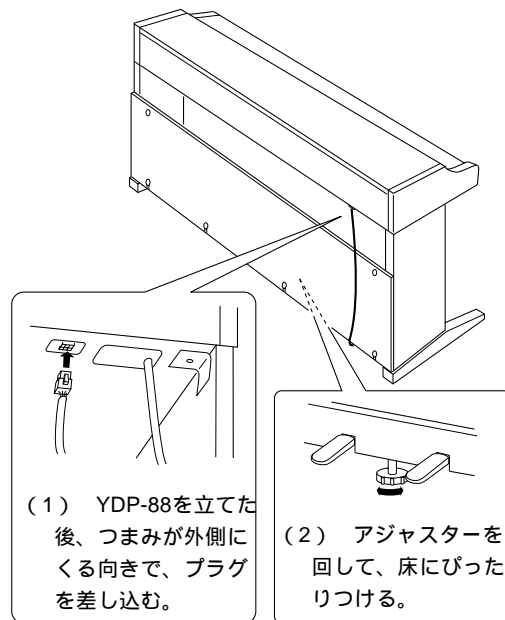


YDP-88の組み立てかた

5 本体 (A)を固定します。



6 スタンドと本体を起こした後、ペダルコードを接続し、アジャスターを回します。



組み立て後、必ず以下のチェックをしてください。

- ・ 部品が余っていませんか？
組み立て手順を再確認してください。
- ・ 部屋のドア等がYDP-88にあたりませんか？
YDP-88を移動してください。
- ・ YDP-88をゆすると、ガタガタしませんか？
ネジを確実に締めてください。
- ・ ペダルを踏むと、下板がガタガタしませんか？
アジャスターを回して床にぴったりつけてください。
- ・ ペダルコードのプラグが、確実に本体に差し込まれていますか？
確認してください。
- ・ 使用中に本体がきしむ、横振れする、グラつく等の症状がでたら、組み立て図にしたがって各部のネジを締め直してください。

仕様

鍵盤	88鍵 (A-1 ~ C7)、イニシャルタッチ付き
音源	AWM音源
最大同時発音数	最大28音
音色	ピアノ、エレクトリックピアノ1、エレクトリックピアノ2、ハーブシコード、オルガン
効果・機能	デュアル、トランスポーズ、ピッチコントロール、メトロノーム、テンポ、デモ演奏
レコーダー	録音/再生、早送り
その他コントロール	電源スイッチ、ボリューム、ダンパーペダル、ソフト/ソステヌートペダル
付属端子	ヘッドフォン端子(x2)
メインアンプ	7W × 1
スピーカー	16cm × 1
定格電源	AC100V、50/60Hz
消費電力	15W
外装	仕上げ：ダークローズウッド調仕上げ 間口：134.6cm 奥行：42.3cm 高さ：77.2cm(95.2cm*)、 重量：31.5kg (譜面立てを含む)
付属品	ヘッドフォン、椅子、譜面立て、トップカバー、保証書、ご愛用者カード、取扱説明書(本書)

* 高さ()内は、譜面立てを立てた場合
仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

サービスと保証

サービスのご依頼は、お買い上げ店へお申し付けください。

本機の保証は、保証書によりご購入から本体は満1カ年、ヘッドフォンは満6ヵ月です。（日本国内のみ有効）保証期間を過ぎましても有償にて責任をもってサービスを実施いたします。尚、補修用性能部品の保有期間は製造打切り後最低8年となっております。また、保証期間中の修理などサービスについてご不明の場合は、お買い上げ店か右記、お近くのサービス網宛お問い合わせください。

お買い上げ店による修理調整

故障の場合は、お買い上げ店にご連絡ください。責任を持って修理調整をいたします。

サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、ご住所、電話番号などをハッキリお知らせください。またお勤めで昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。（楽器の具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、万が一やむをえぬ事情によって、お約束を変更しなければならないようなときにお客さまにご迷惑をおかけしないですみます。）

ヤマハ電気音響製品サービス拠点

〔修理受付および修理品お持込み窓口〕

北海道サービスセンター	〒064 札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内 TEL. 011 (513) 5036
仙台サービスセンター	〒983 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL. 022 (236) 0249
首都圏サービスセンター	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL. 044 (434) 3100
東京サービスステーション* (*修理品お持込み窓口)	〒108 東京都港区高輪2-17-11 TEL. 03 (5488) 6625
浜松サービスセンター	〒435 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内 TEL. 053 (465) 6711
名古屋サービスセンター	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F TEL. 052 (652) 2230
大阪サービスセンター	〒565 吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内 TEL. 06 (877) 5262
四国サービスセンター	〒760 高松市丸亀町8-7 ヤマハ(株)高松店内 TEL. 0878 (22) 3045
広島サービスセンター	〒731-01 広島市安佐南区西原6-14-14 TEL. 082 (874) 3787
九州サービスセンター	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL. 092 (472) 2134
〔本 社〕 カスタマーサービス部	〒435 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内 TEL. 053 (465) 1158

北海道支店 / 〒064 札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内
L M 営業課 TEL. 011 (512) 6113

仙台支店 / 〒980 仙台市青葉区大町2-2-10 住友生命青葉通りビル
L M 営業課 TEL. 022 (222) 6147

東京支店 / 〒108 東京都港区高輪2丁目17-11
特販営業課 TEL. 03 (5488) 5475

関東支店 / 〒108 東京都港区高輪2丁目17-11
L M 営業課 TEL. 03 (5488) 1688

名古屋支店 / 〒460 名古屋市中区錦1-18-28
L M 営業課 TEL. 052 (201) 5199

大阪支店 / 〒542 大阪市中央区南船場3-12-9 心斎橋プラザビル東館
特販営業課 TEL. 06 (252) 7491

広島支店 / 〒730 広島市中区紙屋町1-1-18
L M 営業課 TEL. 082 (244) 3749

九州支店 / 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
L M 営業課 TEL. 092 (472) 2130

電子楽器営業部
ポータブル楽器営業課 / 〒108 東京都港区高輪2-17-11
TEL. 03 (5488) 6641

住所および電話番号は変更になる場合があります。

ヤマハ株式会社

M.D.G., EMI Division C Yamaha Corporation 1995

Printed in Indonesia